

# 佐渡米通信

# こめへる

2019年 08月号

発行日:2019年8月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 山田・藤巻  
Jasadoeinoubu20@dune.one.ne.jp

## 穂肥えの適期を見逃さないように

7月10日から16日までの間、島内100カ所の展示圃場を会場に穂肥指導会が行われました。JAの指導員から「穂肥は、適切な時期に適切な量を散布することが重要です。ほ場毎に異なる稲の生育状況に応じて判断してください」と、「佐渡米穂肥適期スケール」が配付されました。配付したスケールには、葉色目安と幼穂長と出穂前日数の基準が記載されており、「今年は茎数がやや多い傾向にあるため、栄養不足にならないようにしっかりと穂肥を行ってください」との説明が行われていました。説明後の質疑では、品種ごとに異なる幼穂長の基準や、展示圃ごとの具体的な穂肥施用の適期について、具体的に質問があがっていました。



幼穂の長さや葉の色の濃さを測るためのスケールです

## 佐渡の特産品いかがですか?

6月28日から7月2日までの5日間、イオンモール新潟南店で新潟フェアが開催されました。佐渡産品コーナーには、「朱鷺と暮らす郷」認証米のコシヒカリと新之助をはじめ、佐渡乳業の牛乳や佐渡バター・チーズ各種と佐渡産アスパラ・ゴーヤなどが並びました。店頭には生産者も説明に立ち、米の栽培の特徴や日頃の作業の苦労話など、買い物に見えられたお客様からの質問に答えしていました。



## 一句に佐渡への想いをこめて

今年で10周年を迎える「佐渡生きもの語り」の作品募集が、令和元年9月末まで行われています。「佐渡生きもの語り」とは、“環境に配慮し自然や生きものを思いやりながら農業を行う人々”と“生物多様性の島づくりをめざし活動を行っている人々”、“遠い地から佐渡を思う人々”のそれぞれの「心の語り」を、「川柳」や「短歌」「イラスト」などで表現するものです。応募された作品は、選考委員によるノミネート選考と「JA佐渡ふれあいアッセまつり」での一般投票で、グランプリ作品と準グランプリ作品が選出されます。入賞した作品は、お米のPR等に活用される予定です。



## 幻の佐渡牛を堪能

7月7日に、今年で30回目を迎える「赤泊牛肉祭り」が開催され、島内外から300人近いお客様が集まりました。年間流通が少なく、幻級となってしまった“佐渡牛”と地元野菜の食べ放題をはじめ、子供向けにはバター作り体験も行われました。参加者は皆、七輪で焼き上げた減多に味わうことのできない佐渡牛に舌鼓を打ち、屋外の特設会場はにぎやかな笑い声と笑顔であふれていました。



大人も子供も皆で手作りバターを作りました。

